

品質管理体制を強化

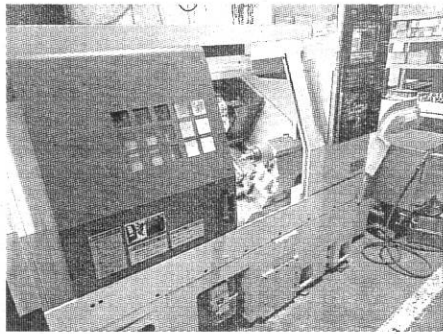
航空機材料の増産に対応

大和合金

銅合金の押出品・鋳鍛造品メーカーの大和

合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は航空機材料の受注拡大に対応し品質管理体制を強化している。試験片加工用のNC旋盤や新型の探傷装置を導入。さらに検査

に関わる周辺設備を強化するほか、非破壊検査の有資格者を増やす。品質関連の設備投資額は数千万円規模。同社ではブッシュと呼ばれる円筒形の材料などを航空機向けに供給。現在生産は繁忙で今後受注は拡大する見通しとなっている。極めて高い要求品質を満たしつつ増産するには品質管理の設備・人員の増強が必要。



試験片加工用のNC旋盤

昨年には試験片加工用のNC旋盤1台を新規購入。1日当たりの加工数量を1・5倍に増やしたほか、省人化も進めた。超

音波探傷検査では新設備の導入で所要時間を大幅に短縮。加えて検査予定の見える化に向け大型モニタを設置し、人員配置を最適化

する取り組みを進める。今年に入ってクレーンや長尺対応の検査台など品質に関する周辺設備の増強も進めている。

人員面では浸透探傷や超音波探傷などの有資格者を増やすほか、より高レベルの資格取得を推奨する方針。